



お問い合わせ一覧

■ 研究支援

岡山大学病院 新医療研究開発センター
[TEL] 086-235-6504 [FAX] 086-235-6505
[E-mail] ouh-csnw@adm.okayama-u.ac.jp
[URL] <http://www.hsc.okayama-u.ac.jp/hos/project/>

■ シーズ申込

岡山大学病院 新医療研究開発センター 橋渡し研究支援室
[TEL] 086-235-7019
[E-mail] kenkyuu-seeds-hyouka@adm.okayama-u.ac.jp
[URL] <https://seeds.hsc.okayama-u.ac.jp/>

■ 医療機器開発

岡山大学病院 研究推進課
[TEL] 086-235-6088 [FAX] 086-235-7552
[E-mail] iryokiki@cc.okayama-u.ac.jp
[URL] <http://mwjp.ccsv.okayama-u.ac.jp/iryokiki/>

■ バイオバンク

岡山大学病院 バイオバンク
[TEL] 086-235-6029
[E-mail] biobank@okayama-u.ac.jp

・国立大学法人 岡山大学
大学院医歯薬学総合研究科
・岡山大学病院
〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1



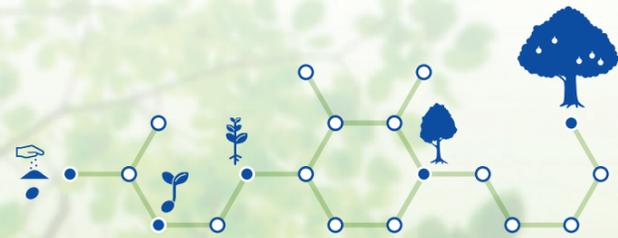
岡山大学が
描く未来



国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED)
革新的医療技術創出拠点プロジェクト (2016年版)

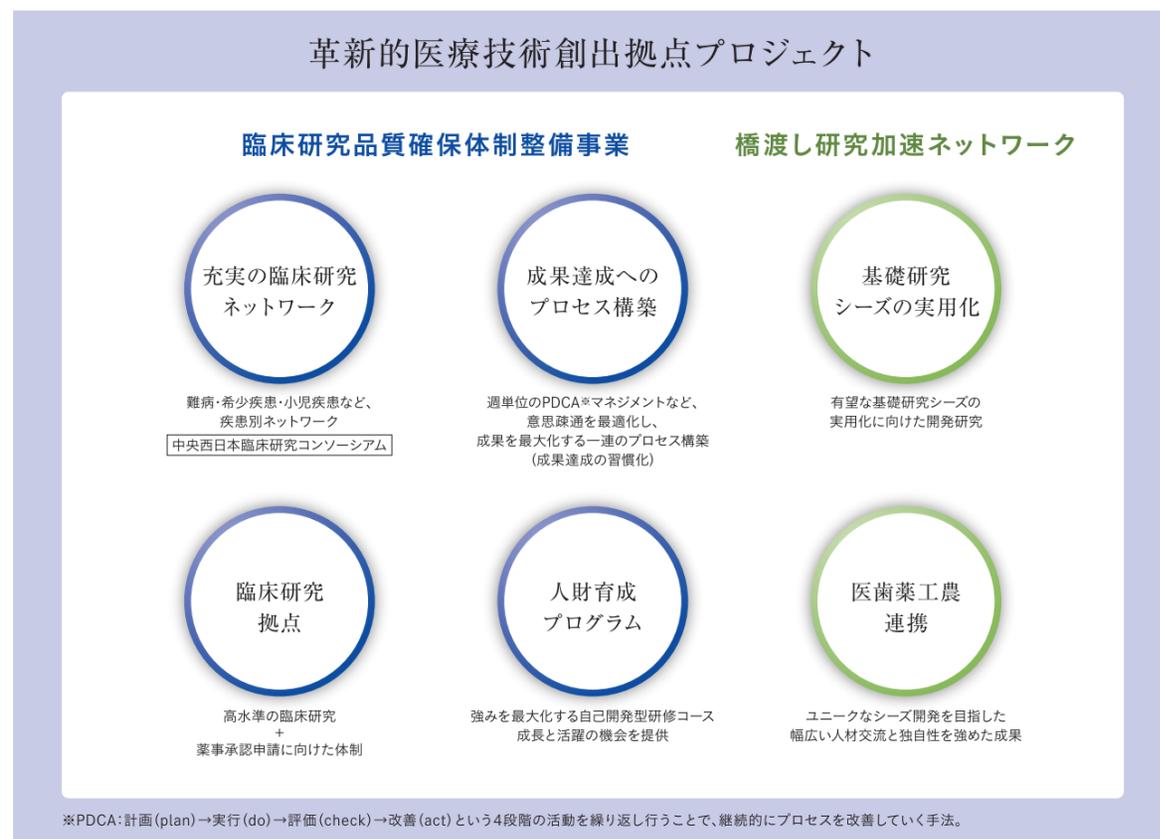
国立大学法人 岡山大学 大学院医歯薬学総合研究科 / 岡山大学病院

岡山大学は 革新的医療研究開発拠点として これからも健康長寿社会実現に向けて 貢献します



岡山大学はAll Japan研究開発体制における一拠点大学として、
様々な領域で革新的シーズの実用化を推進

約150年に及ぶ医学分野の経験と実績を持つアカデミア拠点として、未来へつなげる研究推進及び人財育成を実践しています。



ARO機能、シーズ開発機能、知財戦略における 戦略的マネジメントを強化

健康・医療イノベーション創出へ貢献するため、医薬品・医療機器の開発プロセスを基礎研究段階から実用化までシームレスに推進する体制を整備しました。医療技術革新、研究開発環境変化にも迅速に対応し常に進化を続けています。

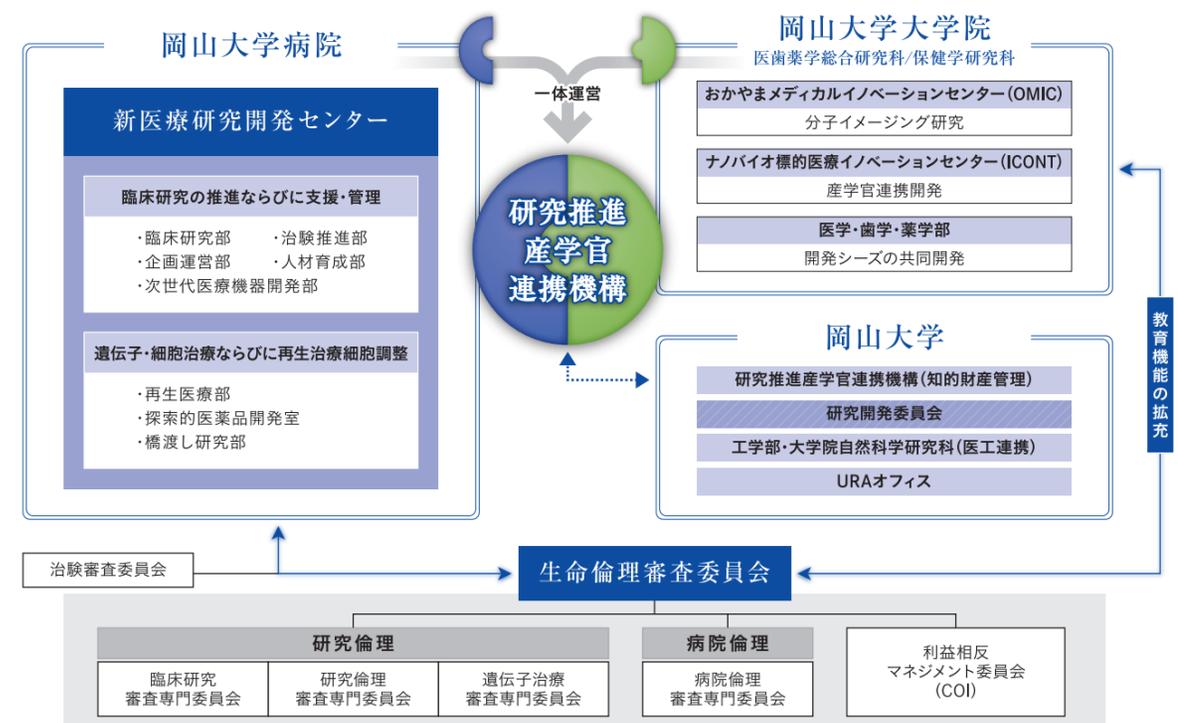
「高度な知の創成(研究)と的確な知の継承(教育と社会還元)を通じて人類社会の発展に貢献します。」これは岡山大学の変わらぬ理念です。

2014年度から臨床研究中核病院、橋渡し研究支援拠点として採択され、翌2015年度からは一体化された国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)が所管する革新的医療技術創出拠点プロジェクトの一翼を担っています。現在、具体的な取り組みとして国際水準の臨床研究・治験の実施・ARO機能の構築・整備などを行い、医療への実用化を目指す臨床研究品質確保体制整備事業を推進。また、健康長寿社会を実現するためには広域での臨床試験・治験をシームレスに行うことが必要であり、中央西日本臨床研究コンソーシアム(メガホスピタル構想)は、それを実現するためのソリューションのひとつと考えています。

岡山大学病院と岡山大学大学院の一体運営を実践

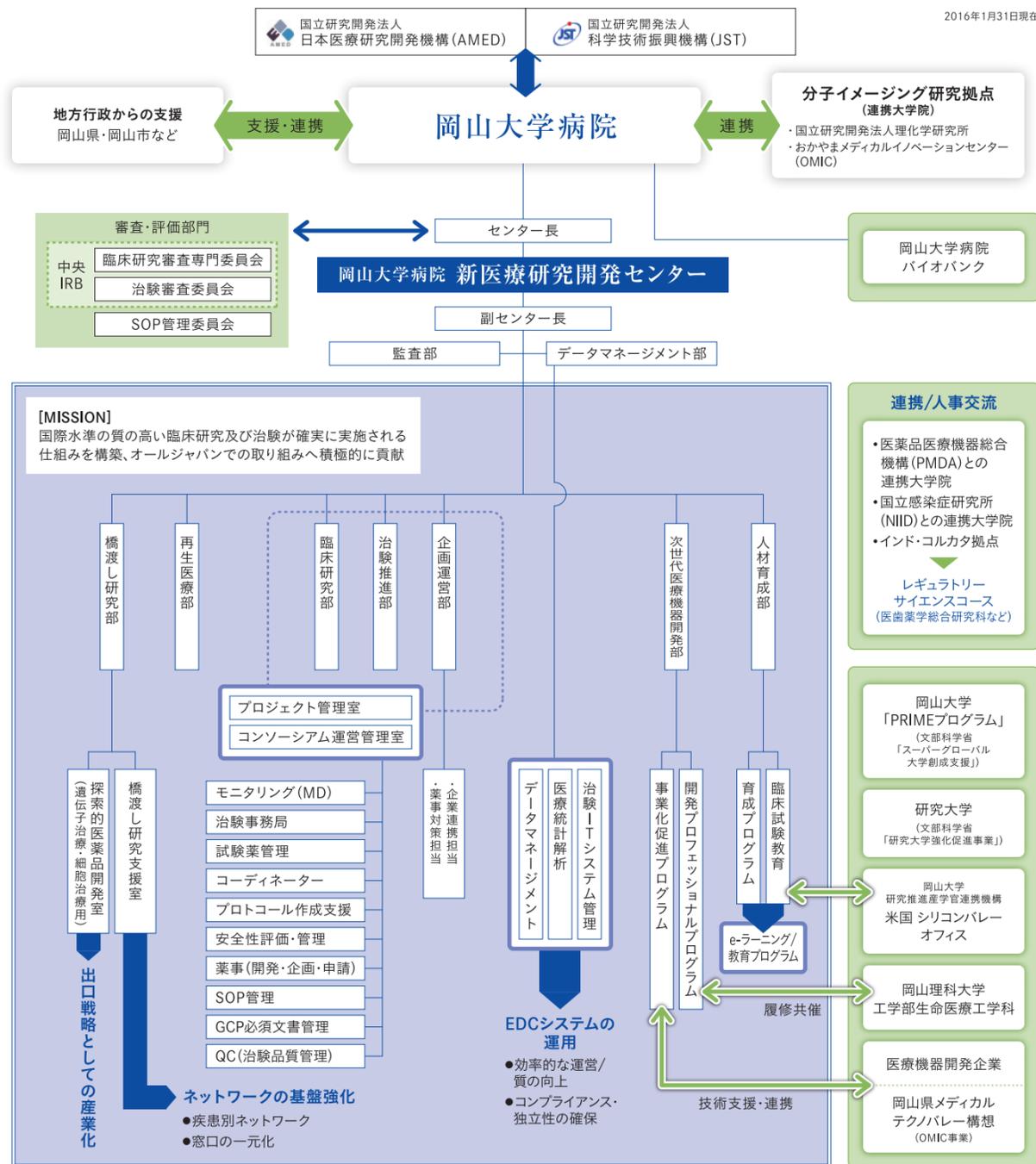
開発シーズをいち早く現場に届けるため、研究開発の初期段階から大学病院と大学院が一体化した組織運営を実践。「研究推進産学官連携機構」のコーディネーションにより、優先順位付けや意思決定をより迅速化すると同時に、組織横断的に標準化された品質管理体制を「新医療研究開発センター」が管理。2週間ごとに全体のPDCAを実施することで、常に完成度の高い成果を実現します。

また、「生命倫理審査委員会」により、研究を始め、病院運営、利益相反管理など幅広い視点から、厳格で透明性の高い監査プロセスを採用しています。



新医療研究開発センター

新医療研究開発センターは「高度な医療をやさしく患者様に提供し、かつ優れた医療人を育成する」という岡山大学病院の基本理念を実現するために、臨床研究・治験・橋渡し研究・医療機器創出を総括的に企画推進する組織です。
次世代に向けた新たな医療（再生医療、遺伝子治療、細胞治療、最新医療機器など）を開発し実用化を実践します。
岡山大学病院のグローバル医療ネットワークを活かし、世界レベルでリードする革新的医療そして優れた人材を創出していきます。

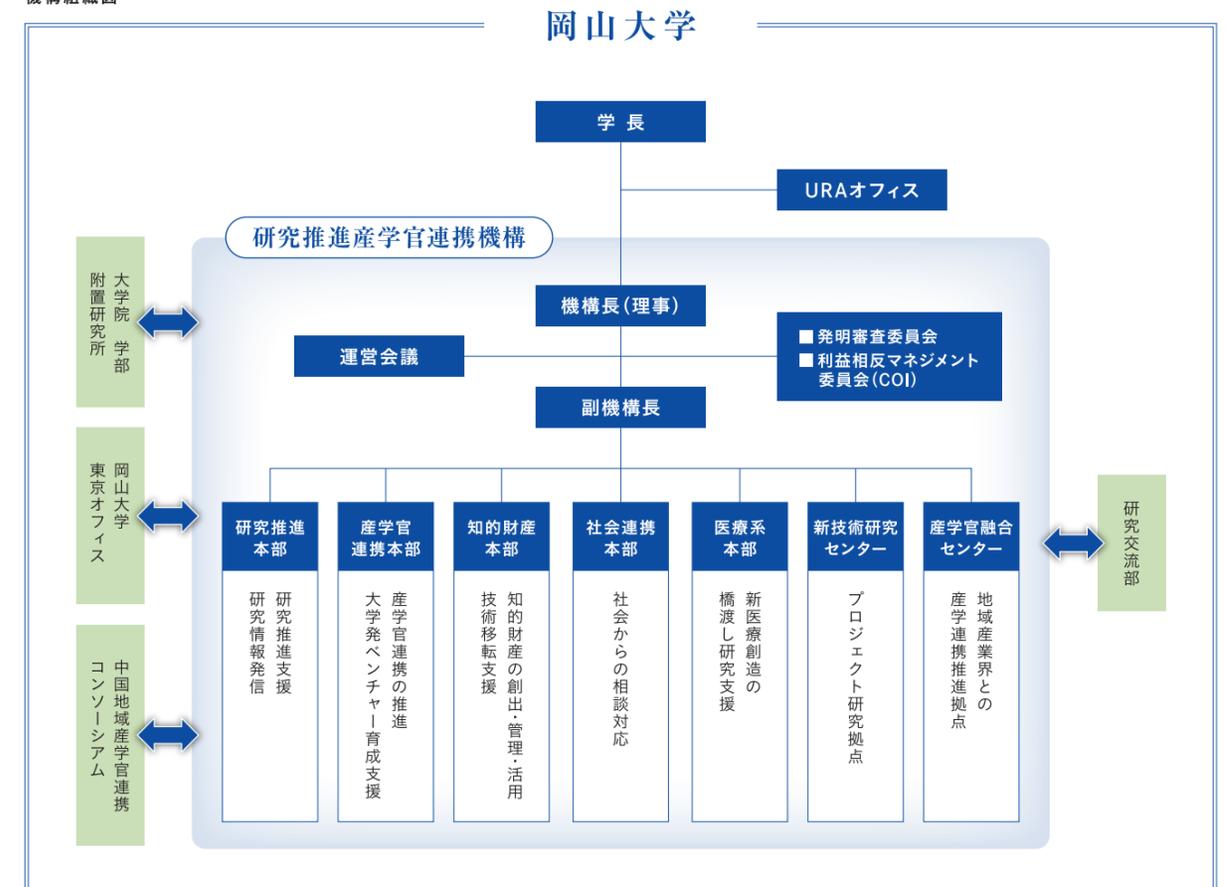


連絡窓口 岡山大学病院 新医療研究開発センター
〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1 [TEL] 086-235-6504 [FAX] 086-235-6505 [E-mail] ouh-csnw@adm.okayama-u.ac.jp

岡山大学 研究推進産学官連携機構

当機構は、岡山大学における学術研究の推進と産学官連携の推進を図るとともに、学術研究の成果である知的財産を組織的に管理、活用し、産学官連携を通じて本学で生みだされた優れた研究成果を社会に還元することをミッションとしています。
この“知的創造サイクル”の正の循環を作り出すことで、地元企業をはじめ我が国企業の国際競争力強化に貢献するとともに、岡山大学の研究活動の高度化、活発化が図られると考えています。

機構組織図



連携機構の主な事業

研究推進活動 → 知的財産活動 → 産学官連携活動 → 社会連携活動

産学官連携本部は、全国の大学・産業界・支援機関などとの緊密なネットワークにより、幅広い産学官連携活動を積極的に展開しています。岡山大学発の研究シーズのみならず、学外の研究シーズ開発支援を推進するプログラムも構築しました。
実用化に向けた企業との共同研究や研究者と企業とのマッチングによって、優れた人材そして革新的事業を創出し、社会・産業界と広く連携しながら、新しい医療の創造を実現して参ります。

中国・四国の基幹病院などとのネットワークを活用 産業創出実用化までシームレスに推進

中国・四国200床以上の83病院、合計3万3千床を誇るネットワーク。

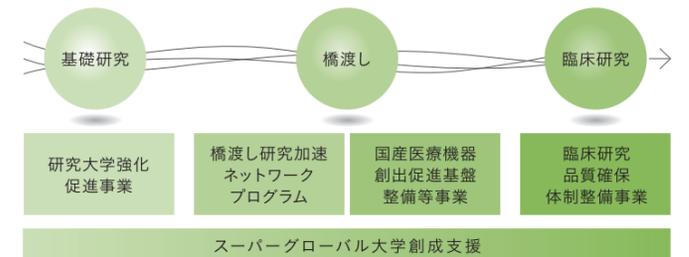
岡山大学病院新医療研究開発センターはトランスレーショナルリサーチの
中国・四国の拠点としてクリニカル・イノベーション・ネットワークに貢献しています。

- コンソーシアム参加施設の疾患情報、患者データを利用できる環境の整備
- 大学院・学部での教育プログラムの強化
- 海外製薬企業、研究機関への積極的なアプローチ



5つの核が そろった研究機関

岡山大学拠点は、以下の5つの事業に採択・選定され、基礎研究から臨床研究までシームレスに結ぶ研究機関として機能しています。



83病院を 全体で底上げ

e-ラーニング「OUH-Elearn」を開設

インターネットを介したこの教育プログラムによって臨床研究・治験に携わる人材の能力開発を進め、メガホスピタルを支える病院での倫理的妥当性と科学的妥当性を担保した臨床研究の拡大・推進を促しています。



ポータルサイトを開設

中央西日本臨床研究コンソーシアムの関連施設はもちろん、大学や企業関係者など、幅広い層に向けて臨床研究・治験の情報を発信する、中央西日本臨床研究コンソーシアムポータルサイトを開設しました。



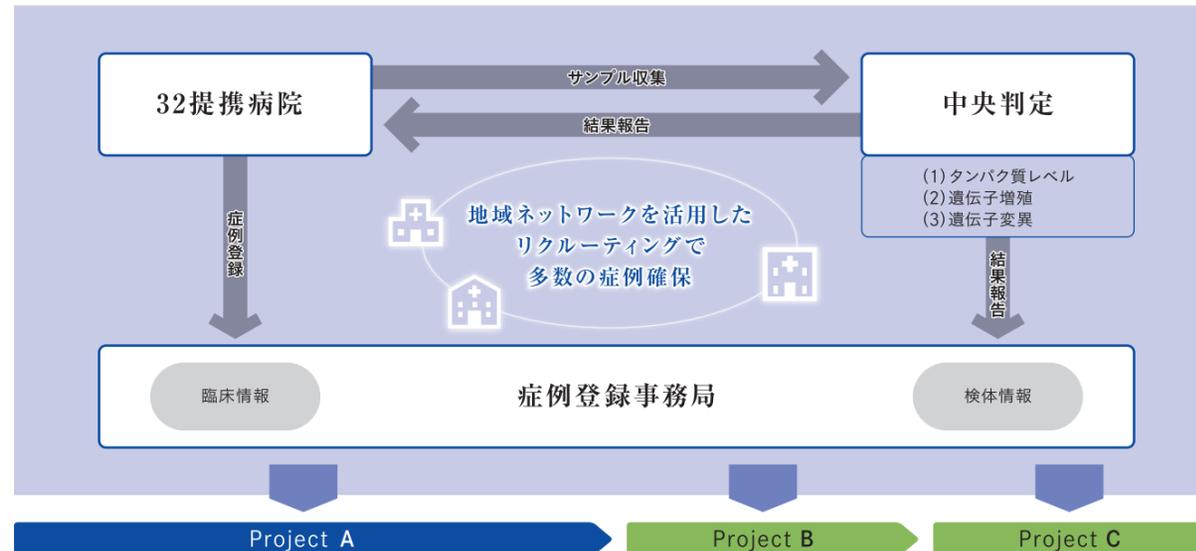
58 関連施設と 連携正式合意

主として中国・四国エリアに展開する中央西日本臨床研究コンソーシアムの施設を当センター職員が訪問し、コンソーシアムの基本構想を説明。83施設中58施設で賛同を得た後、参画合意書の締結に至っています。(2015年11月末現在)



中国・四国エリアでの肺がん患者のレジストリ形成

中国・四国エリアの肺癌臨床研究ネットワークに参加する32提携病院にて被験者リクルートを実施。クオリティの高い検体情報及び臨床情報を収集管理し、臨床試験に活用(2018年申請企業導出)を目指しています。



【試験内容】
特定の遺伝子異常・タンパクの過剰発現を有する肺がんに対して化学療法剤を用いた第Ⅱ相試験

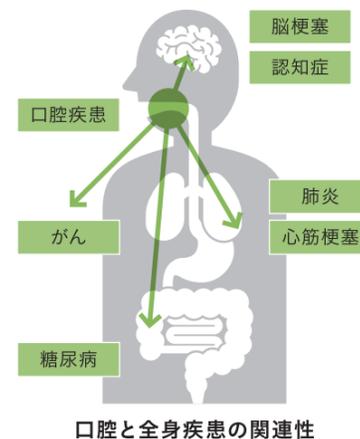
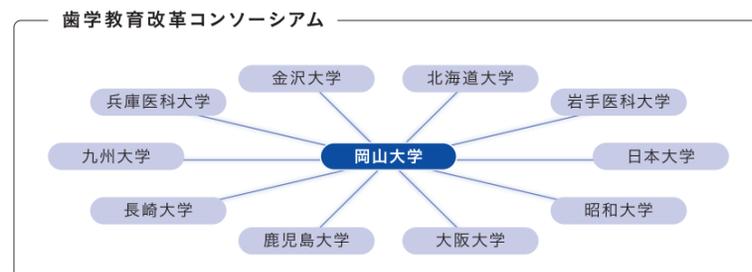
【試験期間】
2015年4月1日～2018年3月31日(3年間)

- メイン医療機関
- ・岡山大学病院
 - ・四国がんセンター
 - ・山口宇部医療センター



歯学教育改革コンソーシアムを企画・推進

岡山大学病院では「歯学教育改革コンソーシアム」と連携しながら、歯学に関連したシーズを育成。「正常な口腔機能の維持」「口腔疾患と全身疾患に関する領域の高度化」「超高齢社会に対応した歯科医療」などの分野での研究に力を入れて取り組みます。



口腔と全身疾患の関連性

バイオバンクネットワーク化の推進

クリニカルバイオバンク研究会の第1回シンポジウムを岡山大学で開催

クリニカルバイオバンク研究会は、診療施設併設型バイオバンクに関する研究と、会員相互の情報交換を行うことにより、「高効率・高品質の検体保管」、「臨床現場に即した生体試料の管理と解析」を実現するための情報・技術の共有を目的として設立されました。

2015年10月に北海道大学、京都大学、千葉大学、岡山大学が参加し「国内外のバイオバンクの動向と方向性、課題」「臨床研究におけるバイオバンクの果たすべき役割」について議論されました。



中央西日本ゲノム医療コンソーシアム構想の加速

疾患関連遺伝子配列解析(クリニカルシーケンス)に基づく的確で迅速な医療を提供するためにコンソーシアムを形成・推進いたします。現在は鳥取大学、徳島大学、岡山大学から開始しています。

目標		
<p>① リソースの効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨床検体・臨床情報・遺伝情報の高度集積化(バンキング) ・リソース(機器、人材、検体・情報)の共有と相互融通 	<p>② 対象疾患の絞り込み(→遺伝子の異常による疾患)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族性疾患(遺伝性疾患)・難病(希少疾患) ・難治がん(原発不明、再発、標準治療不応) 	<p>③ 人材育成・交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同カンファレンス ・解析手法の共有・教育(バイオインフォマティクス) ・中央西日本メディカル・イノベーション(医療展示会)

アカデミアにおける臨床試験・治験ネットワークの参加

難病・希少疾患・小児疾患の疾患別ネットワーク構築による研究開発・創薬を促進するため、中央西日本臨床研究コンソーシアムを基盤とし、拠点内においてアカデミアネットワークによる最適化を目指しています。



レギュラトリーサイエンス入門講座(学部を超えた取り組み)

コア・カリキュラムとの関連	革新的医療技術創出拠点である岡山大学病院のミッションを実現し、創薬・臨床研究分野で活躍できる学術的人材を育成しています。
講義概要	レギュラトリーサイエンスとは、「科学技術の成果を人と社会に役立てることを目的に、根拠に基づいた確かな予測、評価、判断を行い、科学技術の成果を人と社会との調和の上で最も望ましい姿に調整するための科学」と定義されています。各種規制や生命倫理に関する基礎知識、医薬品、医療機器開発、臨床研究の方法論、ならびに知的財産権などについて、実際の事例に基づいて履修します。

岡山大学病院バイオバンク

バイオバンクとは、患者さんからご提供いただいたバイオ検体(血液・組織・尿など)や臨床情報(年齢・性別・治療歴など)をセットで保管・管理し、医学研究に活用する仕組みのことをいいます。また、保管した資料(バイオ検体と臨床情報)は、学内外の研究機関に提供し、医学研究に役立てることを目的としています。

そして、他の医療機関や他大学と連携したクリニカルバイオバンク・ネットワークを整備し、臨床研究の支援やシーズの発明など、革新的医療技術が早期に創出される環境作りに貢献していきます。



運営方針



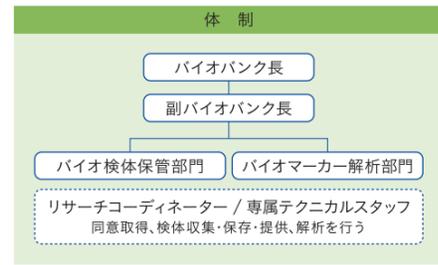
- 診察で得られた検体と付随する診療情報及びそれらの解析情報などをセットで保管・管理
- 病気の予防・治療・創薬にわたる医学研究を支える資源を提供
- バイオマーカー解析を目的とした次世代シーケンサーなどの実験機器を管理・運用
- 運営の自立化を図り、医学へ貢献する安定した基盤となることを目指す

プロフィールと体制



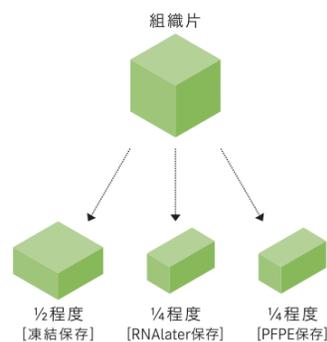
■ 現状の整備状況

- ・2015年4月バイオバンク一部稼働
- ・2015年7月バイオバンク全稼働
- ・特徴: 病院併設型バイオバンクである利点を生かし、電子カルテなどの院内システムと連携し、検体提供後もトレース可能な臨床情報付きの検体提供が可能
- ・共同研究を前提としない「分譲」スタイルも確立。「企業との契約書に知財権利を放棄する旨を記載」「患者同意書に企業への提供を明記」という企業ニーズも満たしている状況



バンキングについて

検体保存方法 ①組織



- [凍結保存]**
- ・5mm角程度に細分化し、液体窒素保存
- [RNAlater保存]**
- ・RNAlater保存液で固定後に-80℃保存
- [PFPE®保存]**
- ※PAXgene fixed paraffin embedded tissue
 - ・PAXgene液で固定後、パラフィン包埋ブロック作製
 - ・HEスライドを作製し、病理医が検体のQuality check
 - ・ブロックは-80℃保存

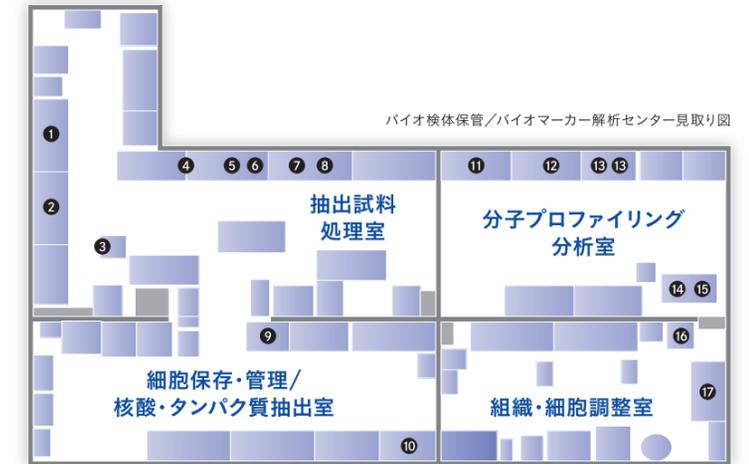
検体保存方法 ②血液

- [血清]**
- ・上清のみ保存
 - ・500μlずつ分注
 - 血清分離剤: 7ml
- [血漿]**
- ・上清とパフィーコート採取
 - ・上清は500μlずつ分注
 - EDTA-2Na: 7ml
- [細胞]**
- ・PBMCs(末梢血単核球)を分離
 - ・生細胞として保存
 - EDTA-2K: 6ml

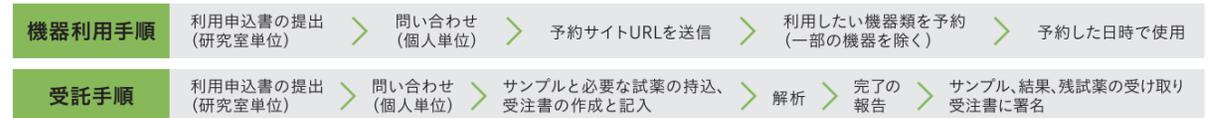
機器利用・受託解析について

岡山大学病院バイオバンクでは、医学研究の進歩に貢献するため学内・学外の研究者を問わず、広く下記の解析機器の利用・受託解析を受け入れています。(検体保管の有無に関係なく、利用できます。)

バイオバンクで
機器及び
ソフトウェアが
利用可能

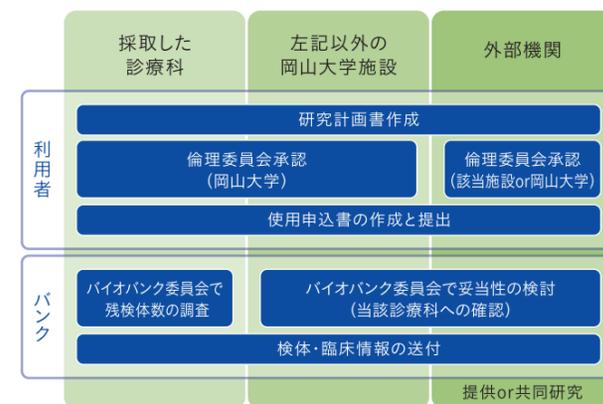


- ① バーチャルスライド: Axio Scan.Z1
- ② レーザーマイクロダイセクション: LMD7000
- ③ 細胞分散・破碎: gentleMACS Dissociator
- ④ 超音波DNA断片化: covarisM220
- ⑤ 遠心濃縮: スピンドライヤーミニ
- ⑥ 核酸濃度測定: LabChip DS
- ⑦ DNA断片ゲル抽出: BluePippin
- ⑧ 核酸分析電気泳動: TapeStation2200
- ⑨ 自動染色装置: ジェミニAS
- ⑩ 生体分子マルチプレックスアッセイ: Bio-Plex200
- ⑪ デジタルPCR: QX200 Droplet Digital PCR
- ⑫ 核酸濃度測定: Qubit 2.0 fluorometer
- ⑬ リアルタイムPCR: StepOnePlus
- ⑭ 次世代シーケンサーデータ解析システム: MAZE, Subdiver, CLC Genomics Workbench
- ⑮ 三次解析ソフトウェア: Subio Platform
- ⑯ 生細胞イメージングシステム: IncuCyte ZOOM
- ⑰ 細胞数計測: TC20全自動セルカウンター



今後の活動展開について

検体提供別の業務フロー



検体の採取～提供・費用回収までのフロー



お問い合わせ



岡山大学病院 バイオバンク

〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1 [TEL] 086-235-6029
[E-mail] biobank@okayama-u.ac.jp

製剤製造・調整設備

がん治療のための遺伝子治療臨床研究(腫瘍特異的増殖ウイルスTelomelysin、Ad-REIC製剤)の製剤調整・保管などに利用。
遺伝子医薬・抗がんウイルス医薬を調製して患者さんに投与する臨床研究(多施設・国際共同治験を含む)を担うことができる施設として整備を進めています。



製造・調整環境



保管

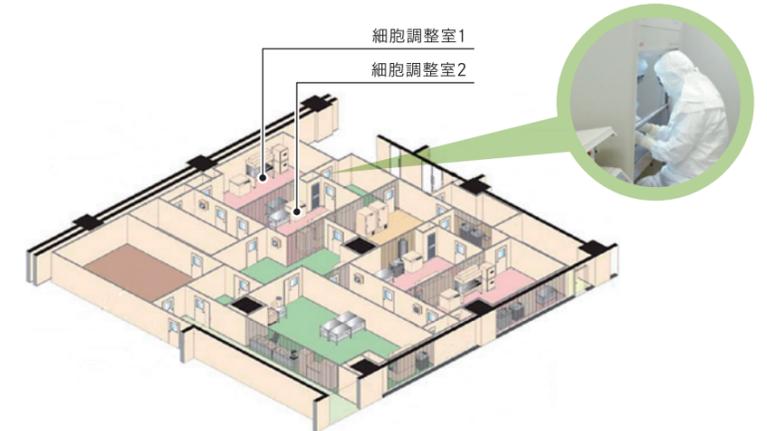
細胞調整施設

2003年4月、遺伝子・細胞治療センターを省令施設として設置し、その後、探索的医薬品開発室と改称しました。
現在はGMP準拠の施設として維持ならびに整備を進めています。

今後はCPC機能をより高め、細胞治療(移植)医薬などを調製して患者さんに投与する臨床研究(多施設・国際共同治験を含む)を担えるよう管理・推進していきます。



施設外観



現在の探索的医薬品開発室

シーズの実現性を低コストで証明し、速やかに社会実装に持ち込みます

非臨床試験体制

本学関連機関である産学官連携組織「おかやまメディカルイノベーションセンター(OMIC)」管理施設の「自然生命科学研究支援センター」に対応しています。

Non-GLP試験については、各診療科、講座や動物実験施設などで実施できる体制をすでに構築しており、動物実験施設については、中・大型動物まで対応可能です。

なお、毒性担当の専門家を非常勤講師として2名雇用し、GLP試験の外部委託に際して適切なマネジメントを行う体制を構築しています。

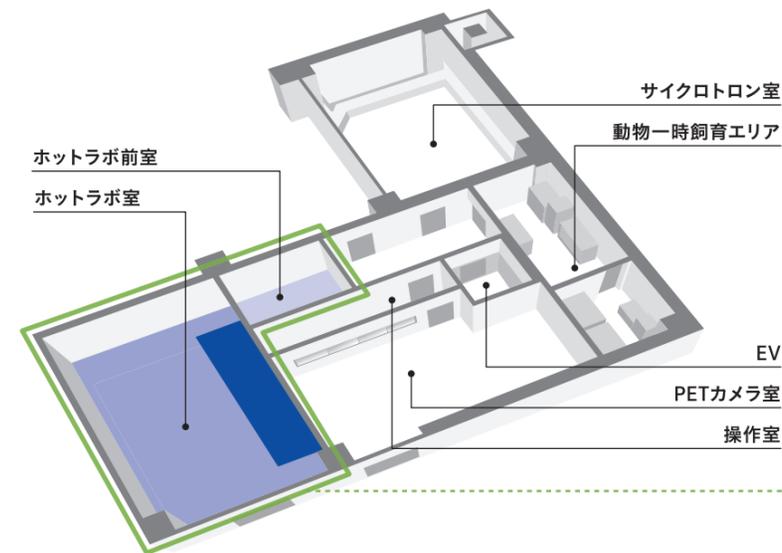
- 標識化合物を投与した動物、PET撮像と解析、投与動物の解剖などPETイメージング実験に必要な一連の装置を整備。
- マウス、ラット、ウサギなど、小・中型の実験動物を用いた実験が可能であり、霊長類を一時飼育する設備を設置。



中動物用PET/CTシステム



ホットラボ室



GMPエリアについて

治験薬GMPエリアとして、以下の区域と基準を設定しています

ホットセル・クリーンベンチ内
グレードA(クラス100)

ホットラボ室
グレードB(クラス10,000)

ホットラボ前室
グレードC(クラス100,000)

シーズの研究実施と特許取得を支援

新しいアイデアから社会的意義のある新たな価値を創造し、社会的に大きな変化をもたらすイノベーションを継続し、実現することはアカデミアの重要な使命です。研究者同士の連携構築、領域を超えた交流、研究の高度化などを支援・推進しながら、優れた研究成果を知的財産として蓄積・保護し、事業創出へ繋げることで社会へ還元させます。

主な支援内容

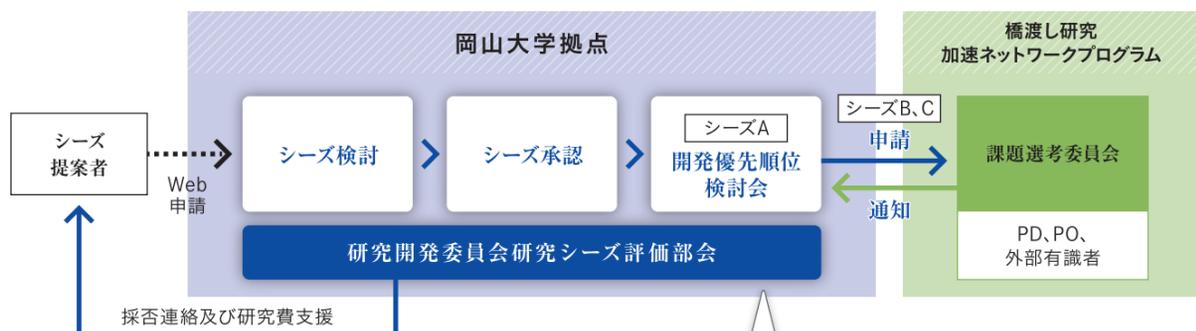
シーズの実用化加速のため、以下の内容を実施しています。

- 拠点外シーズを含むシーズ探索、選考
- シーズの実用化に向けた開発戦略の策定マネジメント
- シーズの進捗管理、評価
- シーズの国際展開を目指した、国際的に通用する基準での支援、海外の共同研究機関対応、海外規制当局対応支援
- 企業とのマッチング活動マネジメント
- 戦略的な知的財産の確保・活用のマネジメント
- 迅速な治験完遂を可能とするなどを目的としたネットワーク構築

シーズ提案から研究費支援決定までの流れ

シーズ提案者は、岡山大学拠点にシーズパッケージ制度を活用した研究支援申請を求めることができます。岡山大学拠点は、定められたシーズ評価プロセスに従い、申請内容を検討し、シーズ承認可否判断を行います。申請は下記URLよりホームページにアクセスし、Web上で幾つかの事項、例えばシーズの概要、特許や発表内容、必要事項などを順次登録し、最後に画面から申請登録してください。

<シーズ基本情報入力先>
<http://seeds.hsc.okayama-u.ac.jp>



承認されたシーズは、特許調査や競合情報を加味して臨床専門家を含む開発優先順位検討会に送られシーズA、B、Cへの振分などについて審査されます(2委員会制)。審査結果は、研究開発委員会シーズ評価部会に報告されます。

研究開発委員会

シーズ応募側に最適化した審査体制
当委員会での応募シーズ審査は、審議の透明性、中立性、客観性、専門性を最大・最適化したメンバー構成で担当しています。

シーズA	シーズB	シーズC
関連特許出願を目指す基礎研究課題	関連特許出願済である研究課題*	関連特許出願及び非臨床POC取得済であり、健康人又は患者さんを対象とし、臨床POC取得を目指す研究課題

*非臨床POC取得及び治験届提出を目指す医薬品及び医療機器の研究課題、業事申請用臨床データ取得を目指す体外診断用医薬品の研究課題

岡山大学の国際展開

岡山大学シリコンバレーオフィス(OUSVO)を開設

岡山大学は2015年11月、米カリフォルニア州にある先端企業の集積地シリコンバレーに現地オフィス(NPO法人)を開設しました。岡山大学が主導して開発したシーズを北米の企業との共同研究契約及びライセンス契約を結ぶことをミッションとしています。



2015年11月13日米シリコンバレーオフィス開所式

シリコンバレーはIT、バイオなどの関連企業が密集し研究者も多く、事業化のための資金も豊富に流入しています。岡山大学がこれまで培った研究成果が顕著で、将来においても革新的シーズが期待できる領域(バイオ、生命科学、医歯薬学など)での研究成果を国際的にアピールする拠点として活動していきます。知的財産に特化した海外拠点の設置は、本邦では非常にユニークな試みとして注目されています。

将来的には、岡山大学と交流協定を結んでいるサンノゼ州立大学をはじめ、周辺大学とのネットワークを構築し、岡山県内企業を巻き込んだ共同研究にも取り組むほか、学生の留学やインターンシップ(就業体験)の支援などにも活動範囲を広げていく予定です。

新たに米国西海岸シリコンバレー地域(フリーモント市)に設置した米国拠点OUSVOを通じ、岡山大学拠点シーズなどの米国企業・ベンチャー企業などへの紹介活動を進めます。

- シリコンバレーの有力な医療機器ベンチャー企業などとの連携を強化し、岡山大学拠点が扱うシーズを情報発信。
- ウェイン州立大学内にレンタルラボなどを確保。
- 築いたパイプを基盤に、米国東部大学との連携を実現し、シーズの更なる国際展開を図ります。

岡山大学の主な海外拠点など

- ベトナム事務所
- 中国事務所
- ロンドン事務所
- インド感染症共同研究センター
- シリコンバレーオフィス
- ミャンマー保健省医科学局及び医学研究局



国外アカデミア機関とのネットワーク活用

米国の治験医師とのネットワーク構築支援、米国アカデミアとのネットワーク構築など、国外アカデミアとの共同研究及び共同治験推進を支援。研究者交流プログラムを構築中です。

Ad-REIC

がん細胞だけを選択的に細胞死させる新世代がん遺伝子治療薬
前立腺がんに対して米国内でUCSD, Baylor大学との共同試験が進行中

テロメラシシ

がん細胞を直接攻撃し、破壊する次世代型抗がん剤
米・Mary Crowley Medical Research Center * Phase I終了(FIH)

医療ニーズを満たす国産医療機器開発の推進

次世代医療機器開発プロフェッショナル育成プログラム／事業化促進プログラム

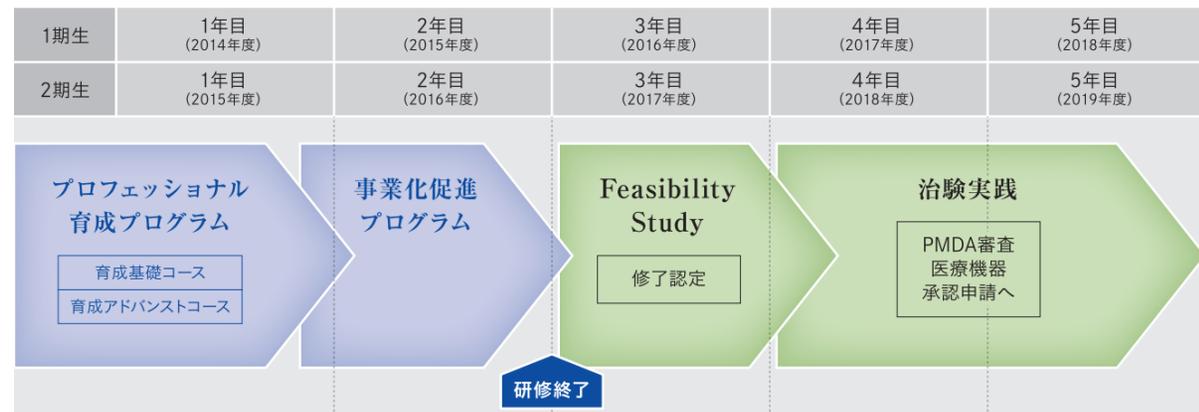
医療機器開発に関心のある企業の方を対象とした研修プログラムを、国産医療機器創出促進基盤整備等事業に選定されている岡山大学病院において実施しています。

本プログラムは、これから医療機器産業への進出を検討される企業の方でも参加できるよう、基礎知識の修得から実際の医療機器の開発までを総合的に学習できる内容となっており、プログラム修了後、企業で実際に医療機器を開発する段階になった際は、実用化までに必要となる治験の実施などを岡山大学病院でサポートすることが可能です。

本プログラムの実施により、産業界と医療現場の連携をより一層強化するとともに、国内外の医療ニーズを満たす国産医療機器開発の推進を図ります。



次世代医療機器開発プロフェッショナル育成プログラム／事業化促進プログラム (ポートフォリオ)



医療機器操作実習(2015年) (協力)岡山理科大学



講義受講(2015年)

受講生募集 (医療機器開発に関心のある企業の方)

岡山大学病院 研究推進課

〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1 [TEL] 086-235-6088 [FAX] 086-235-7552
[E-mail] iryokiki@cc.okayama-u.ac.jp [URL] http://mwjip.csv.okayama-u.ac.jp/iryokiki/

2020年 岡山大学医学部は 創立150周年を迎えます



OKAYAMA UNIVERSITY MEDICAL SCHOOL
150th ANNIVERSARY

未来へと紡ぐ、業と精神 岡山大学医学部が歩んできた軌跡

- 明治 3年(1870) 岡山藩は医学の進歩を図るため、岡山藩医学館を設置し大病院を併設。
- 13年(1880) 岡山県医学校として独立。
- 21年(1888) 岡山県医学校を廃止し、第三高等中学校医学部を設置。
- 22年(1889) 岡山医学会の初回講演会を開催し、岡山医学会雑誌を初刊。
- 34年(1901) 第三高等学校の医学部を分離し、岡山医学専門学校として独立。
- 43年(1910) 秦佐八郎がエールリヒと共同で「サルバルサン606」を合成し、世界初の化学療法剤を開発。
- 大正 11年(1922) 岡山医学専門学校を廃止し、岡山医科大学を設置。
- 12年(1923) 関東大震災。
- 昭和 20年(1945) 岡山大空襲。学内の木造校舎の多くを焼失。終戦。
- 24年(1949) 岡山大学医学部となった。
- 33年(1958) 新医学教育課程(いわゆる岡山方式：少人数臨床教育)の実施。
- 39年(1964) 東京オリンピック開催。
- 45年(1970) 医学部創立100周年記念式典を挙げる。
- 50年(1975) 山陽新幹線全線開通。
- 62年(1987) 利根川進氏ノーベル賞医学生理学賞受賞。
- 平成 7年(1995) 阪神淡路大震災。
- 10年(1998) 医学部附属病院で、日本初の生体肺移植手術に成功。医療技術短期大学部を改組し、医学部保健学科を設置。
- 11年(1999) 医学部附属病院で、日本初の肺がんの遺伝子治療を開始。
- 15年(2003) 医学部附属病院と歯学部附属病院を統合し、医学部・歯学部附属病院とした。
- 16年(2004) 国立大学法人法の施行により、国立大学法人岡山大学となった。
- 17年(2005) 大学院医歯学総合研究科と大学院自然科学研究科(薬学)を統合し、大学院医歯薬総合研究科を設置。
- 21年(2009) 医学部・歯学部附属病院を大学附属病院とし、岡山大学病院に改称。
- 23年(2011) 東日本大震災。
- 24年(2012) 山中伸弥氏ノーベル賞医学生理学賞受賞。
- 25年(2013) 岡山大学病院が、災害拠点病院及び高度救命救急センターに指定された。岡山大学病院が臨床研究中核病院(厚生労働省)に選定された。地域医療人材センターおかやま(通称マスカットキューブ)を設立。Junko Fukutake Hall(通称 J-Hall)が竣工した。
- 26年(2014) 研究大学(文部科学省「研究大学強化促進事業」)に選定された。岡山大学大学院医歯薬学総合研究科が「橋渡し研究加速ネットワークプログラム」(文部科学省)に選定された。
- 27年(2015) 岡山大学「PRIMEプログラム」(文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」)に選定された。
- 32年(2020) 東京オリンピック開催 岡山大学医学部創立150周年。



岡山県医学校正面図 [明治17年建築]



世界初の化学療法剤(サルバルサン606)の注射の様子



岡山医科大学附属病院 [大正10年建築、鹿田町]



岡山大学鹿田キャンパス [昭和36年]



緊急患者搬送



地域を牽引し、世界からの期待に応える スーパーグローバル大学・研究大学として

岡山大学長 挨拶



国立大学法人岡山大学長
森田 潔

岡山大学は現在、11学部、7研究科、附置研究所、全国共同利用施設、大学病院、附属学校を備え、2万人の学生、留学生、教職員が知的創造に取り組む、日本屈指の総合大学の1つです。

「高度な知の創成と的確な知の継承」を大学の理念に掲げ、岡山大学を「国際的な研究・教育拠点としての『美しい学都』」として発展させていくことを目指しています。

2013年には、文部科学省の「研究大学強化促進事業」、厚生労働省の「臨床研究中核病院整備事業（現：臨床研究品質確保体制整備事業）」に選定され、2014年には厚生労働省の「国産医療機器創出促進基盤整備等事業」、文部科学省の「橋渡し研究加速ネットワークプログラム」、「スーパーグローバル大学創成支援（Top Global University Project）」に採択され、我が国においてポテンシャルを持つ大学へと飛躍しております。

岡山大学は中国・四国地方の結節点として、国策である医療イノベーションを実現し、世界水準の研究・教育・地域医療の充実をさらに目指しています。今後とも皆様方のご指導、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

岡山大学 病院長 挨拶



岡山大学理事(病院担当)・
岡山大学病院長
榎野 博史

岡山大学病院は2013年に臨床研究中核病院整備事業（現：臨床研究品質確保体制整備事業）に指定されて以降、加速度的に臨床研究の品質確保体制の整備を進めてきました。

また、2014年には、厚生労働省の「国産医療機器創出促進基盤整備等事業」、文部科学省の「橋渡し研究加速ネットワークプログラム」に採択され、革新的医療技術創出拠点プロジェクトの推進拠点として、より戦略的な事業を遂行しています。

医療の分野では「臨床研究品質確保体制整備事業」と「橋渡し研究加速ネットワークプログラム」の両方を獲得した大学は、旧帝大を除けば岡山大学と慶應義塾大学の2大学のみであり、国や自治体の大きな期待を担っています。今後はオールジャパン体制で医薬品・医療機器開発を、基礎のシーズ発掘から医師主導の治験実施により、速やかな事業申請につなげていきます。

また、中国・四国地方における唯一の「革新的医療技術創出拠点」として、国立大学病院臨床研究推進会議中国・四国地区連絡会や中央西日本臨床研究コンソーシアムの活用により、中国・四国地方から新しい医薬品、医療機器を創出することで、国民の皆様へ成果を還元し、また、ご期待に応えられるよう今後とも精進していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科長 挨拶



岡山大学大学院
医歯薬学総合研究科長
谷本 光音

昨年度、岡山大学は革新的な医薬品・医療機器などを効率的・効果的に国民へ還元することを目指した事業「橋渡し研究加速ネットワークプログラム」の9拠点のひとつに採択されました。岡山大学では、「健康寿命の延伸を目指した次世代医療の開発」というビジョンの下、先行する他の拠点や中国・四国地方の研究機関とのネットワークを構築しつつ、自己収入の確保を促進することによって恒久的な橋渡し研究支援拠点を確立させることを大きな目標としてその活動を進めて参りました。

私たちの拠点事業の特徴は、臨床研究品質確保体制整備事業（旧：臨床研究中核病院整備事業）の対象である岡山大学病院との一体化事業であることに加えて、歯学系や看護・介護、福祉分野まで広く健康寿命を増進させる学際統合的な事業という点です。

次年度以降もこのような特徴を保持しつつ、拠点内及び拠点間のネットワークにより集約された研究シーズや情報を、戦略をもって強力に実用化に向けて加速していくことで、より多くの研究成果を国民の皆様へ還元したいと考えています。

最後になりますが、今回の成果報告にあたり、広く連携機関との協力体制の形成と多くのシーズのご登録にご協力を賜りました関係者の方々のご尽力に心から感謝申し上げます。

岡山大学の理念

高度な知の創成(研究)と
的確な知の継承(教育と社会還元)を通じて
人類社会の発展に貢献します。



岡山大学病院 臨床研究品質確保体制整備事業
ロゴマークについて

臨床研究を表す「Clinical Study」の頭文字「C」を図案化したものです。真ん中の球体は臨床研究及び岡山大学病院を表し、またその周りの3色のラインは「産業化」、「メガホスピタル化」、「グローバル化」を表現しています。